



令和7年11月4日 本校



チームたかとく・はくれい

「なかよく学び すすんで働こう」「希望・意欲・自立」

子どもの育成を目指して -本校 校長たより⑬-

～自分のできることで、まわりの人を笑顔にしよう!幸せにしよう!～

上 松 武

## ■日々の積み重ねの大切さ(その2) ～小学部1年生の学習活動から～

- ・10月21日発行の校長たよりで、高等部3年生の修学旅行で「日々の小さな積み重ね」の大切さを、生徒たちの態度や行動から気付いたことを掲載しました。
- ・今回は小学部1年生の学習に取り組む姿から「日々の小さな積み重ね」の大切さを感じたので、紹介します。
- ・入学したばかりの子どもたちはなかなか椅子に座って一定時間学習に取り組むことが難しかったり、手をつないで一つ一つの活動を教えたりすることが多くあったと思います。しかしながら、最近では次のような行動を見ることが多くなりました。

ー学級の係活動で配付物を取りに職員室に行く際に、出入口の足型で止まって、お辞儀をして職員室に入り、配付物を取って出てきた。

ー給食の準備でエプロンを身に付ける時に、椅子に座って手元を見て、ボタンを留めていた。

ー一人一人の給食のお盆に、ストローを一本ずつ置いていた。

ーハロウィーンの飾り制作の活動で、椅子に座って、使いたい材料を先生に伝えたり、貼りたいシールを自分で選んだりして、15分～20分集中していた。

- ・小学部1年生は入学してから10月末まで116日間学校で過ごしました。これだけの時間や日数を掛ければできると思われがちですが、決してそのようなことはありません。例として挙げた1年生の学びの姿は、いつでも見られるようになっています。このことは「日々の小さな積み重ね」の賜物であり、それが自分でできることとして習慣化されていると私は思っています。そして、何よりも子どもたちと先生方との間に信頼関係が築けている証です。
- ・学校生活後半の85日間で、どんな積み重ねを続けていくのか、とても楽しみです。

## ■後期の校内・職場実習がスタート ～高等部の実習開始に向けて～

- ・高等部では、11月4日(火)から後期の校内実習、職場実習が始まりました。10月30日には実習開始に向けた壮行会が行われ、次のようなメッセージを生徒たちに贈りました。

後期の実習にチャレンジするみなさんへ

その① 一生けん命に、カッコよく

その② いつも以上に、カッコよく

その③ 失敗しても、カッコよく

なかまと いっしょに「大人」への階段を のぼっていこう



- ・私は、「その③ 失敗しても、カッコよく」を特に大切にしてほしいと思っています。初めての実習先という生徒もいるでしょう。同じ実習先で2回目、3回目という生徒もいるでしょう。経験の違いはあっても、とにかく一生懸命に取り組んでもらいたい。
- ・その結果、失敗してしまったら、言い訳などせずに潔く「ごめんさい。」「申し訳ありませんでした。」と謝ることです。そして、「どうしたら失敗しなくなるか、教えてください。」

「次は、〇〇に心掛けます。」と次への一生懸命さを伝えられるといいですね。

- ・高等部の生徒たちがそれぞれの実習先で一生懸命に取り組み、一人一人が輝いてほしいです。

## ■大人への階段の入口

～中学部2, 3年生の職場体験学習から～

- ・中学部2年生と3年生は10月16日（木）と17日（金）に職場体験学習を実施しました。
- ・2日のうちの1日を、市内の福祉事業所で作業活動をさせていただきました。生徒たちにとっては、不安と緊張が続いた時間だったと思います。
- ・先日、生徒一人一人のお礼状を読む機会がありました。たった1日の職場体験学習でしたが、日々の学習に生かそうとする感想がたくさんありました。いくつか紹介します。
- ・私は「たった1日の職場体験学習でも、仕事をするを考える大切な1日を過ごすことができた」と感じました。まさに「大人への階段の入口」に立った1日ですね。
- ・学校生活後半の作業学習など様々な学習活動において、どのように階段を上がっていくのか、生徒一人一人に注目していきたいと思います。

なかまと いっしょに  
「大人」への階段を  
のぼっていこう



耳で職場体験をさせていただきありがとうございました。うぶになりました。ほくお掃除と受言し作業も体験しました。1日おと憧れのほくとても大変でした。学校の作業学習でも長い時間集中することを目指してがんばっていきます。

高田特別支援学校 中学部

しくはたいけんをさせていただきありがとうございました。RAITOのみなさんは、1日中しゃうちゅうして、しごとをされ、すごいとおもいました。わたしは、作業学習や危うさをがらばって、り、は、大人になりたいです。

高田特別支援学校 中学部

## ■学校紹介・作品展 ～11月1日から11月14日まで～

- ・上越市福祉交流プラザで当校の学校紹介と作品展が行われています。この三連休の間に私も見に行きました。
- ・小学部は学習発表会で展示した2・4・6年生の作品が展示されており、中学部と高等部は作業学習の様子と作業製品が展示されていました。また、寄宿舍の一日の生活も紹介されていました。



- ・当校の教育活動や児童生徒の学んでいる姿を、地域の方々に知っていただく貴重な機会です。
- ・今現在、中央教育審議会において、2030年に小学校から実施予定の次期学習指導要領が審議されています。未来を切り拓くこれからの子どもたちを育む教育にはますます地域の力が必要となってくることが話題にもなっています。
- ・そのためにも、『学校づくりは、ま

ちづくり』の考えを推し進めていき、学校だけでは身に付けることができない、未来に必要な力を地域の方々と共に育んでいくことを訴えなければいけません。

- ・これからも、このような機会を大切に、当校の教育活動をきめ細やかに発信していきたいと考えています。地域支援部の先生方、ありがとうございました！ 今後も職員一同、地域と共につくる学校を目指していきましょう。

## ■絵本の紹介

『ぐるんぱのようちえん』 西内 ミナミ さく 堀内誠一 え



### 内容紹介

1966年に発売されて以来、ずっと変わらず子どもたちに愛され続けているこの絵本。なかなか上手に自分の居場所を見つけられないぐるんぱを見ながら、子どもたちは知らぬ間に自分と重ね合わせているのかもしれません。だからこそ、最後の場面に出会った時、たくさんの子どもたちに囲まれて遊ぶぐるんぱの様子に心底ほっとため息をつき、嬉しそうな笑顔を見せるのでしょう。

さらに子どもたちの心に強烈な印象を残すのは、ぐるんぱの作った大きなビスケットであり、大きなおさらや靴であり、スポーツカーやピアノであり。あのワクワクするようちえんであり。そういった魅力的な絵の数々でもあります。そうやって、あらゆる感覚を刺激してくれる1冊だからこそ、ロングセラーとなっているのでしょうね。

失敗を繰り返しながらも前に進む健気なぐるんぱ。その先でしっかりと自分の仕事を見つけるぐるんぱ。絵本を開くたびに会うぐるんぱは、大人になった今でも、私にとって「ともだち」であり、「あこがれ」なのです。

(絵本ナビホームページから)